



よくある質問や不安 Q&A

学校規模適正化を進めていると「小中一貫教育をするために統合再編をするのか。」という声をよく聞きますが、小中一貫教育はより良い教育をするための手段であり、それ自体が目的になることはありません。平城西中学校区では、小学校の 1 学年 1 学級となっていく教育環境と中学校の 1 学年 2 学級という教育環境を、より望ましい教育環境にしていくために小学校を統合再編し、平城西中学校と施設一体型小中一貫教育を行う、という方針を示しました。

しかし、保護者の皆様や地域の方々には、様々なご意見や不安があります。例えば、



Q「今の教育（学校）は、少人数で先生の目が届くので安心だ。子供と先生のコミュニケーションもとやすく、子供同士も仲良くなりやすいと思う。そういった良さが失われるのではないか。」

- A ☞ 右京小学校も神功小学校も 1 学年 30 人前後の少人数で、きめ細かでアットホームな教育を進めています。統合すると 1 学年が 60 名前後の学校となりますが、クラスが 1 学年 2 学級となることから 1 学級の規模は今とあまり変わりません。現在のよう、きめ細かにアットホームな関係の中での教育を継続します。
- 1 学年 2 学級となることで毎年のクラス替えが可能となり、より多くの友達の中で多様な個性に出会い、経験を積むことができます。また、学年に複数教員がいることは、子供の見守りや支援がより手厚くできることもメリットです。

Q「施設一体型小中一貫校になると、9 年間同じ場所で同じメンバーの生活になる。それは子供にとって良くないと思う。」

- A ☞ 確かに 9 年間変わらない人間関係の中での学校生活には課題があります。それは人間関係を築いていく力（コミュニケーション力）の育成です。しかし、施設一体型小中一貫校だからこそできる課題克服に向けた取組があります。例えば日常的な学校生活の中での小中交流です。異年齢・異校種間の関わりの中で小学校 1 年生から人間関係を築いていく力を磨いていきます。

Q「中学校での段差は必要。中 1 ギャップがなくなっても高 1 ギャップが心配だ。」

- A ☞ 子供たちは「壁」を乗り越えて成長します。それは施設一体型小中一貫校でも同じです。施設一体型小中一貫校は「壁がない」のではなく、中学 1 年で出会う壁を少し小学校に分散したりして、どの子も自分の力で乗り越えるように工夫しています。9 年間の学校生活の中で高 1 ギャップにも負けない力をつけていきます。

Q「小学校の学校規模も課題だが、むしろ中学校の学校規模が心配だ。」

- A ☞ 現在平城西中学校は 1 学年が 2 学級規模の学校となり、教員数や部活動の活性化などに課題ができました。この課題は小学校の統合再編によって解消されることはありませんが、施設一体型小中一貫校となることで中学校教員が 1 名配置されたり小学生が中学校の部活動に参加することができるようになったりと、課題解消に向けた一歩を踏み出すことができます。また、小学校教員が中学生に関わるができるようになるため、中学校教育の活性化に向けた取組も可能になります。

Q「施設一体型小中一貫校は、連携型の小学校・中学校とどこが違うのか？」

- A ☞ 中学校教員が小学校の英語や音楽、図画工作といった教科を教えたり小学校教員が部活動の顧問をしたりといった「目に見える違い」もありますが、「一つの学び舎に小中学校の教員がいて、その教員全員で小学校 1 年生から中学校 3 年生までの教育を日常的に行っている」というところが一番大きな違いです。

小学校教員は小学校卒業後の子供たちの様子を目の当たりにすることで「自分の受け持つ学年ではどのような力をつけなければならないのか」が分かってきます。中学校教員は中学校入学前の子供の様子を知ること、学習面も生活面も一人一人に応じた指導・支援をすることができるようになります。また、小学生は中学生を見ることで将来の自分の姿をイメージでき、中学生は小学生の姿から自分の成長を実感できます。



奈良市教育委員会事務局 教育政策課
奈良市二条大路南一丁目 1 番 1 号
TEL (0742) 34-5386/FAX (0742) 34-4906

平城西中学校区の子供たちのために

これまで平城西中学校区では小中一貫教育パイロット校として小中連携を密にした教育を進めてきました。平成 27 年度にすべての市立学校で小中一貫教育が実施された後も「確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子」を中学校区の目指す子供像に掲げた教育を推進しています。

もちろん、右京小学校、神功小学校、平城西中学校ではそれぞれの良さを生かした教育も進めてきました。右京小学校と神功小学校が統合再編し、平城西中学校と施設一体型小中一貫校となるにあたって、3 小中学校がそれぞれ積み上げてきた教育の良さを継承しながら施設一体型小中一貫校ならではの特色を生かした教育を推進していきます。

目指す学校のイメージは、

（右京小学校＋神功小学校）× 平城西中学校 です。



【右京小学校】

右京小学校では、

- ・ いきいき 学習や活動をする子・・・分かる喜びを体得する子
- ・ はきはき 自分の考えを伝え合える子・・・人の話を聞ける子
- ・ ほのぼの 温かい心を持った子・・・ちがいを認めあえる子
- ・ こつこつ 努力を続けられる子・・・汗を流して働く子

の育成をめざしています。子供たちが大人になって、「右京小学校で学んでよかった」と「自分自慢」「学校自慢」ができる学校作りに教職員全員で取り組んでいます。



【神功小学校】

神功小学校では、『心を耕し、夢を育む子供の育成』を学校教育目標として、学校づくりに取り組んでいます。土を耕すように心も耕し、豊かな感情が素直に表現できるように、そして、自分の夢に向かって努力を続けられる人に育ってほしいです。

めざす子供像 『自分が好き 友だちが好き この町が好きな神功の子』

- ・ たくましい心身……………明るく 元気な子
- ・ 確かな学力……………よく考え 学びとる子
- ・ 豊かな人間性……………仲良く 助け合う子



【平城西中学校】

平城西中学校では、「友愛」「自主」「健康」を校訓とし、自由で伸び伸びとした校風の下、「とりどりの花」を咲かそうと、一人一人の個性を大切にする教育を行っています。「笑顔あふれる学校」「一人一人の生徒が充実感をもって毎日を過ごす学校」「保護者・地域から信頼される学校」をめざす学校像として取り組んでいます。



～ 3 校の良さが息づく学校づくりを目指します ～

平城西中学校区で行う小中一貫教育とは ～ 教育面について ～

新しい学校づくりには次の 3 つの方針で進めています。

① 施設一体型小中一貫教育を実施し、教育の充実を図ります。

- ・めざす子供像を 9 年間で統一し、学びの連続を重視したカリキュラムに基づいて展開します。
- ・小学校で中学校教員による乗り入れ授業を行い、より専門性のある授業を行います。
- ・小中学校の教員がお互いに生徒指導や部活動等に関わることで、よりきめ細かな見守りと支援を行います。
- ・校種を超えた交流活動、合同授業で、豊かな人間性と確かな生きる力を育みます。

② 確かな学力を身に付けさせて、未来を生き抜く子供を育てます。

- ・英語や ICT 教育等を充実させて、コミュニケーション能力や情報活用能力を養います。
- ・これまでも推進してきた図書館教育をより充実させ、豊かな感性と知性を養います。
- ・小中学校の多くの教員の関わりの中で中 1 ギャップの解消をめざし、子供の成長を支えます。
- ・地域と連携したこれまでの取組（放課後子供教室等）の充実を図り、子供たちの学びを豊かにします。

③ 地域とともにある学校づくりをめざします。

- ・すでに活発に活動している平城西中学校区地域教育協議会と連携・協力し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」として、コミュニティスクールを進めています。
- ・学校を「地域の人が集う場」だけでなく、学校から地域に情報を発信する場にします。

平城西中学校区の学校規模適正化では、小学校の統合再編の効果『**右京小学校＋神功小学校の効果**』と施設一体型ならではの効果『**（右京小学校＋神功小学校）×平城西中学校の効果**』があります。

具体的には、次のような効果です。

○ 右京小学校＋神功小学校の効果

- ・より大きな集団の中で多様な意見、多様な個性と出会い、切磋琢磨して学びます。
→ 合唱指導やクラス対抗学習などでは、より大きな集団での学習や 2 学級ならではの活動が可能となります。
- ・複数教員の眼で子供たちを見守ります。
→ 学級担任以外にも学年の先生が子供を見守り支援することで、よりきめ細かな指導ができます。

○（右京小学校＋神功小学校）×平城西中学校の効果

- ・中 1 ギャップの解消に努めます。
→（小学校） 中学校の姿が見え、安心して進学できます。
→（中学校） 進学前の子供の姿を知ること、中学校入学後も一人一人に応じた声掛けや支援を行います。
- ・教科指導が充実します。
→（小学校） 英語、理科、音楽、美術等でより専門性の高い教員の指導が可能になります。
→（中学校） 小学校から中学校へと学習スタイル・学習スキルがつながり、自ら学ぶ力が育ちます。
- ・安心・安全で豊かな学校生活の提供
→（小学校） 中学校教員や生徒指導部と協働し、多くの教員・視点から子供に寄り添います。
→（中学校） 中学校卒業まで小学校教員が見守り、相談に乗ります。
- ・教員が力を発揮できる環境を整備します。
→ 未来型の教育に対応できる学校にリノベーションし、新しい時代を先取りする教育を行います。

施設一体型小中一貫校のイメージ（案）～ 施設・設備面について ～

施設一体型小中一貫校を開校すると、その教育を行うことができる環境（施設・設備）が必要となってきます。現在はイメージ（案）として下記の内容を検討しています。（施設設備については、今後小中学校の教員も交えて協議しながら検討していきます）

○ 小学校校舎は、平城西中学校敷地に新築し、中学校校舎と接続させて小中学生が交流できるようにします。

〔施設・設備について〕

- ・小中学生の日常的な交流や委員会活動の催しをすることができるような学校をめざします。
- ・ICT 環境を整え、グループで学び合える新しい教育に対応できる学校をめざします。
- ・職員室は小中合同とし、子供たちの情報を共有し、指導や支援の意思統一を図った教育を行います。
- ・避難基地としての役割を果たすことができるような学校をめざします。

○ 小学校教育を十分行うことができるように教育環境を整備していきます。

- ・小学校体育館の新設と、小学校用のサブグラウンドを整備します。
→ 小学校体育館は、中学校の武道場と兼用とします。
→ 小学校体育館とサブグラウンドは、放課後や休日には地域や社会スポーツに開放します。
- ・プールは小中兼用とし、小学校低学年用プールと小学校中学年～中学校用プールの二槽式とします。

○ 中学校校舎のリノベーションを行います。

- ・トイレ等の内装の改修を行い、中学校の教育環境の整備を行います。
- ・必要に応じて、小学生も使用できるような教室環境にしていくことを検討します。



平城西中学校区のすべての子供たちのために

全国に施設一体型小中一貫校は 107 校（H28 年度現在）ありますが、その学校規模は全校児童生徒数が 50 名に満たない学校から 1000 人を超える学校まで様々です。同じように「施設一体型小中一貫教育」といっても、その取組の特徴は様々です。平城西中学校区では、この地域だからこそできる教育、この地域の子供たちに見合った教育を行ってきたいと思います。次の文章は、富雄第三小中学校のある保護者の方のお手紙です。

うちの子の今のブームは、カラー公園でドッジボールをすることです。期末テスト終了の頃から、カラー公園に 4～5 人の中学生がよく来ます。はじめ、1 年生ぐらいの男の子が、中学生のサッカーの輪に入っていました。そこに、うちの子も入ってサッカーをしていました。次々と小学生が入って、いつの間にか、ドッジボールになっていました。

中学生は小さい子には転がしたり、ゆっくりとボールを投げ、中学生同士では速い球を投げ、ドッジボールをしている子らは、とても楽しそうでした。カラー公園の中学生は本当に優しく、遠まきに見ている小学生を見つけると、「入る？」と、自然に声をかけてあげていました。うちの子は、それから別れるときにいつも、「次、いつ遊べる？」と聞くのですが、お兄ちゃんたちは姿勢を低くして、「何曜日だったら遊べるよ。」と約束しています。その中学生たちも、もしかしたら家では反抗期だったり、親と話をしなかったりするのかもしれませんが、外で小さな子供に、こんなに優しく遊んでくれて、素敵だなと思いました。

小中一貫校だからなのか、その子供たちがやさしいのか分かりませんが、うちの子も大きくなったとき、小さい子供とこんな風に遊べる中学生になってほしいなと思いました。（富雄第三小中学校『学校だより』より引用）

平城西中学校区のすべての子供たちが心優しく成長するよう、小中の先生と一緒に考えて、保護者や地域の皆様とともに新しい学校を創っていきます。

